

## 角永の芸術

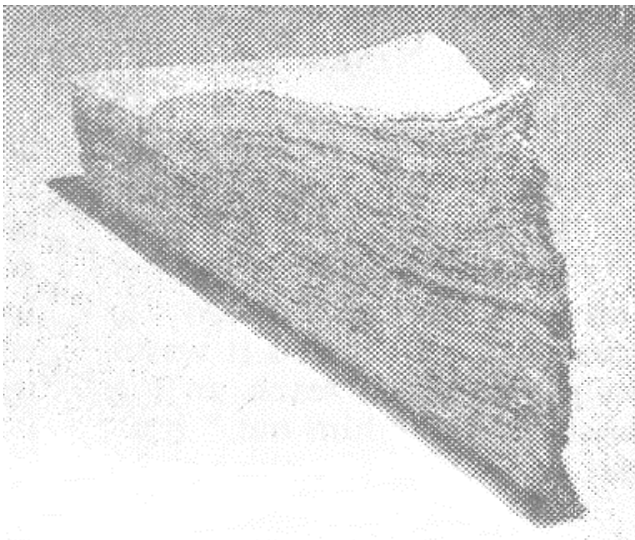


### サウステキサス美術館提供の生水和夫と望月久の写真

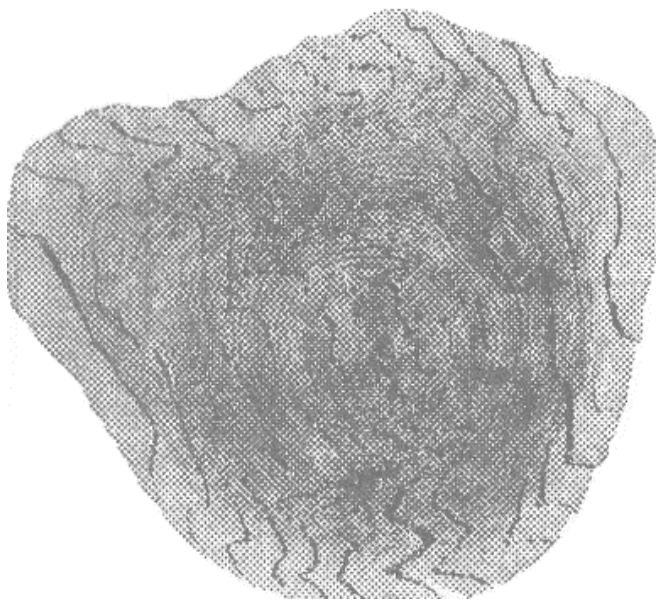
南テキサス美術館での展示は、自然素材の尊重に重点を置いた日本の芸術運動を反映しています。

By David Pickering

それは今、サウステキサス美術館の別の世界です。ドアに入ると、展示されている作品の中を通り過ぎると、その感覚が増していくのを感じ始めます。別世界。しかし、誰ですか？展示されているアートは日本人アーティストの角永和夫によるものなので、



おそらくこれが角永の世界でしょう。それが実際にはそうではないことを除いて、少なくとも主にはありません。ピカソのショーに入るとピカソの世界に入ることができ、他の西洋のアーティストのショーにも同じことが言えますが、この展示「角永和夫：木/紙/竹/絹」は異なります。角永は、ピカソのような芸術的な「主人」ではなく、従順な「しもべ」です。このショーの世界は、主に彼が仕える世界、つまり自然界です。これは角永が微妙に取り組んだ素晴らしい丸太ですが、オブジェクトを作成する精神では、すでに存在するものの本質を明らかにする精神よりも劣っています。同じ精神が、手漉きの紙の束、竹の長さ、そして芸術家の最も有名な作品のいくつか、杉の骨組みに包まれた蚕の繭に広がっています。これらの後者の作品は、12月のニューヨーカーの記事で取り上げられたものの1つでした。角永は、「もの派」と呼ばれる日本の運動に影響を受けたアーティストの一人です。ムーブメントの主要な要素は、天然素材への敬意でした。一部のアーティストが実践しているように、天然素材の「神聖な品質」への敬意もありました。その態度の前兆は、自然界の樹木や岩などの特徴に生息すると信じられている神聖な霊（神）への敬意を特徴とする古代日本の神道の宗教に見られます。



1960年代に栄えたもの派の最も優れた説明の1つは、Sculpture誌のJanet Koplosによる最近の記事に含まれています。記事からの抜粋は次のとおりです。

「作品は直接的で、一時的で、匿名でしたが、決して非人格的ではありませんでした。彼らは、人が何を処理または達成できるかに関して控えめな人間のスケールを保持し、しばしば、メーカーの手を示しました（しかし彼のエゴではありません）。これはもの派の天才であり、同じ時代のアメリカの芸術運動と最もよく区別される側面かもしれません。作品は、人間を宇宙の中心と見なすことなく、人間性を維持しました。作品は、ドナルド・ジャッドやカール・アンドレの彫刻ほど冷たく、産業的に繰り返されることはなく、リチャード・セラの彫刻の残忍で脅迫的な性質を持ったことはなく、ロバート・モリスのように、親密さや素材の官能性の回避を目標として取り上げたことはありませんでした。アドバイスしました。もの派は、エリート主義の尊さに屈したり、すべてが一時的なものであるという事実を見失うことなく、物質界の固有の性格と価値を認識することによって、人と自然を調和させることを目的とした前向きな哲学でした。角永は、このショーのカタログに掲載されている彼の発言の1つから明らかのように、その精神に明確に触発された日本のアーティストの1人です。私が興味を持っているのは discov です。天然素材の自然の美しさを表現し、公開する」そして、このショーでは、共感を持って鑑賞者が惹きつけられる素材です。確かに、アーティストが仕事をしていることは承知しています。ここでの感覚は、主に「自然の神聖な森」と呼ばれるものの中を歩いている感覚です。ある感覚では、アーティストはそれを私たちにもたらしするための仲介者としてのみ機能しました。ショーは、アーティストの生活に関する優れたギャラリーノートを用意しています。彼の哲学と個々の作品。これらは、アーティストがいくつかの資料

にどのような変更を加えたかがほとんどの視聴者に正確にわからないため、この種の展示で特に役立ちます。適切な例として、近くに巨大なログがあります正面玄関一見普通の丸太のように見えますが、この木片にはとても魅力的なものがあることに気づき始めます。プログラムノートでは、角永がベニヤを使って丸太を非常に薄い層にスライスしたことがわかります。見た後、再評価それを mbled。結果として、これはどういうわけか「超現実的」に見えるログ、内向きの輝きのあるログ、夢からのログ、私たちが招待しているように見えるログです。

「角永和夫：木/紙/竹/絹」AMSTが主催し、ここからサンアントニオのブルースタースペースギャラリーに移動します。ショーは10月2日までAMSTで展示されます。1902N。ショアラインの博物館の営業時間は正午から午後5時までです。週末の火曜日から金曜日の午前10時から午後5時まで。月曜日は休業です。角永公演に関連して、美術館の下のギャラリーにも日本の子供たちの美術展が展示されています。角永展に関連するその他のイベントには、日本の監督による一連の映画や日本の芸術技術に関する一連の講義が含まれます。木曜日の映画シリーズの映画には、小津安二郎の「東京物語」が含まれています。これは、現代の日本の世代間の対立についての9月8日です。溝口健二の「歌麿と五人の女」、18世紀の偉大な日本の版画家の生涯について、9月15日。篠田正浩の「悪魔の池」、9月22日、池に閉じ込められた3人と精霊について。すべての映画の上映時間は午後7時です。チケットは3ドル、美術館のメンバーは2ドルです。講義には、地元の著名な開業医である Dinah Bowmanによる講演が含まれます。9月10日(土)午後1時の夜叉ヶ池(メンバーは5ドル、4ドル)、9月23日(金)正午、現代日本の伝統工芸品(frce)についての講演。9月24日土曜日の午後1時の東洋文化博物館のパットクレメンツによる折り紙の芸術のデモンストレーション(メンバーは5ドル、4ドル)、および9月30日金曜日の正午のオリガルニについてのクレメンツによる無料講義。

